

本年度の意見交換会は、前回の会議で村民の皆様の関心の高かったネズミとオオコウモリの対策をテーマに開催しました。行政側から取り組みの現状と今後の方針を報告した後、村民の皆様の意見をうかがいました。父島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「主な意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。今回いただいた意見については、早い段階で「報告会」を開催し、村民の皆さまへ対応方針などをフィードバックする予定です。

なお、本会議には科学委員会委員長の大河内氏も同席されました。委員長は、本会議に先立ち島内の農業者の畑を視察し、早急なネズミ・コウモリ対策の必要性を再認識され、科学委員会としても対策の進展をバックアップしていく意向を述べられました。

## 1. ネズミの被害と対策について

### 【主な意見・課題】

- 育てているバナナ、レモン、パッションフルーツが、ネズミのせいで全滅した。被害は補償していただきたい。
- ネコは、生態系サイクルの中に組み込まれ、バランスを保っていた。ネコを捕獲したのは間違いだったと思う。
- ネズミが増えたのは、ネコが減ったからではなく、近年、大きな台風が来ていないため山にネズミのエサが豊富にあるからだと思う。
- 殺鼠剤を全家庭に配って一斉に撒いたらどうか。
- 私は有機農業を目指しており、殺鼠剤もできれば撒きたくない。
- 対策に一貫性がない。住民の意見に対応しつつ、真剣に対応してほしい。
- 殺鼠剤で死んだネズミは、ウジやハエがわき、匂いも不快である。

### 今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・ネコとネズミの因果関係は明確になっていないが、対策をとらないわけではない。行政間で連携し、山城、里域における対策を同時に進めていく。
- ・個別の被害に対する補償は、行政の事業としては対応できない。公平性を保ち、皆に平等な対応を検討する。
- ・集落内に殺鼠剤を散布するには、人やペット等への影響を検討する必要がある。また、撒き続けるとそれに抵抗をもったネズミができてしまうため最良策ではない。守るべき農作物、希少種の囲い込み、環境を清潔にする等の対策も合わせて行っていく。

## 2. オガサワラオオコウモリ、その他について

### 【主な意見・課題】

- 世界遺産登録後、山にコウモリやハトのエサがなくなったので、集落に出てきたと思う。
- ヒヨドリよけのネットを張っているが、メジロが網をくぐって中へ入り、トマトが全て食べられてしまった。
- メジロが増加し、これまで食べなかったライチ、マンゴー、トマト等の作物を食べるようになった。
- メジロは増えたので、捕獲禁止を解除し、捕獲してはどうか。
- ウスカワマイマイが増殖し、葉や芽を食べられてしまう。駆除方法はないだろうか。

### 今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・メジロの捕獲は一律禁止となっている。
- ・ウスカワマイマイの殺虫剤は残留性が高いので、使用しない方がよい。

# 平成26年度第1回村民意見交換会概要報告(母島)

本年度の意見交換会は、前回の会議で村民の皆様の関心の高かったネズミとオオコウモリの対策をテーマに開催しました。行政側から取り組みの現状と今後の方針を報告した後、村民の皆様の意見をうかがいました。母島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「主な意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。今回いただいた意見については、早い段階で「報告会」を開催し、村民の皆さまへ対応方針などをフィードバックする予定です。

なお、本会議には科学委員会委員長の大河内氏も同席されました。委員長は、本会議に先立ち島内の農業者の畑を視察し、早急なネズミ・コウモリ対策の必要性を再認識され、科学委員会としても対策の進展をバックアップしていく意向を述べられました。

## 1. ネズミの被害と対策について

### 【主な意見・課題】

- ネズミはここ数年で急速に増えたと感じる。ハウスの網に穴をあけて入るようになった。傷ものは、売れないので困っている。メジロやメグロ等の鳥もハウスへ入ってくる。
- 農協の殺鼠剤販売個数は予定数で販売しており、実際の需要はこれより多いはずだ。
- 殺鼠剤補助は、年度の変わり目に使用できず、困る。東京都に費用を出してもらえないか。
- ネズミは1、2年ごとに増えるサイクルがあると実感している。
- 殺鼠剤の継続散布で低密度化できるなら、周辺も含め継続的な事業化をはかっては。
- 中ノ平農業団地は、周囲の山域農地であるため、周辺を含め全部を囲い、中に定期的に殺鼠剤を撒くというのはいかがでしょうか。
- ネコ対策とネズミ対策はセットで進めてほしい。
- 施設農産物対策で、高圧電流を流すワイヤーを設置できないだろうか。
- ネズミの生態、生活形態、ほ場での動き等を研究し、効果的な殺鼠剤の撒き方（置き方、撒く時期等）を農業者に伝えていただきたい。
- 森と集落のネズミ対策は、一緒に考えていくべきである。
- 脇浜にネズミの巣ができて、カメの卵を食べる被害が出ている。対策補助はないか。

### 今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・ 殺鼠剤の補助量については、行政側で再検討する。(小笠原村)
- ・ 東京都にも相談しているが、世界遺産名目の予算でやりくりするのは難しい。
- ・ 農地周辺の森林を含めた殺鼠剤散布についてはこれから検討を行うが、速やかに決めていく。
- ・ 殺鼠剤の散布は、どういう制度に落としこめるか行政として検討する。
- ・ 経費の問題については、科学委員会で助言・提言いただく予定である。
- ・ 電気をういた対策は、子どもが触れる場所に設置する場合は安全対策を考える必要がある。ハウスは、裾部対策、網、ネズミ返し、電気の4つを組み合わせる方針である。
- ・ ノネコ対策は、受け入れ側が必要なことから、一挙には進められない。対策エリアを区切りつつ、ネズミ対策と歩調を合わせて順次進めていく。
- ・ 小笠原村は、当面は殺鼠剤購入費補助を行う。
- ・ 環境省は、山域での対策ノウハウを人里に適用するなど、協力体制のあり方を検討する。
- ・ 東京都は、農薬の散布の仕方について、亜熱帯農業センター、農業試験場と相談する。
- ・ 脇浜のネズミ対策は対応策を検討する。

## 2. 兄島等について

### 【主な意見・課題】

- 兄島アノール対策のため、これまで実施してきた対策の予算が削られ、元の状態に戻ってしまわないか不安である。
- こうした緊急事例に対しては別途予算を組み、従来の事業は継続させてほしい。
- アノールを不妊化することはできないのか。
- 姉島で、オガサワラカワラヒワがネズミ被害を受けており、絶滅が危惧される。

### 今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・ 兄島アノールは、対策可能な最後のタイミングであり、緊急事態として対策を継続している。トランプは昆虫にダメージのないよう密度を下げ、最後のとどめを撃つ方法を検討している段階である。
- ・ 科学防除等も試験中である。議会で、地域としての要望事項は出している。要望は続けていく。(小笠原村)
- ・ アノールの不妊化は難しい。被食昆虫を何万引きも飼育するのは大変であるのと、アノールは何度も交尾をするので、効果が薄い。今は、エサに毒をつけて撒くことを検討している。
- ・ アノールに注力するあまり、他の生物に対する被害が大きくなってはまずい。(環境省)

### 大河内委員長のコメント

- ・ ネズミは、農業だけでなく母島に多く残る固有陸産貝類にも影響を与える。母島へプラナリアの侵入があれば、小笠原は危機遺産になりかねない。琉球列島から直に土付き苗を導入するのは、できるだけ避けていただくか、事前に相談をしていただきたい。
- ・ プラナリアが入ると、農産物に被害を与える陸産貝類が減るとするのは幻想である。ウスカワマイマイは、プラナリアが入った後に入ってきたが、依然数が多い。
- ・ プラナリア、広東充血線虫が寄生している可能性があり、プラナリアの付着した葉物野菜を食べ、観光客が亡くなった例がある。気をつけてほしい。